



青南だより

令和2年3月号

港区立青南幼稚園
園長 新山 裕之

＜心の根っこを伸ばす舞台＞

15日の生活発表会では、どの子も、お家の方々に頑張る姿を温かく見守ってもらい、緊張しながらも、やり遂げた満足感や自信を得ることができました。感想文には、子どもたちの主体性を大切にしている、その育ちが見えたという感想がたくさんあり、さすが青南の保護者！と、うれしく感じました。お面や衣装をきれいに大人が作ったり、作らせたりすることはできます。しかし、劇を通して子どもたちに育てたいこと、保護者の皆さんに見てほしいことは、そこではないのです。そのことが分かっていただけでいることに、改めて感謝します。

＜いろいろな人との関わりで育つ＞

5歳児は、青南小学校に出掛け、5年生の授業を見学し、1年生にはランドセルを背負わせてもらったり、一緒に給食を食べさせてもらったりしてきました。素朴な質問に1年生から丁寧に答えてもらい、その後も一緒に楽しい時間を過ごし、学校への期待が高まりました。第二校庭へのお別れ散歩では、なかよしトリオでリレーをしたり、踊ったりする中で笑顔が溢れました。異年齢の子どもたちが一緒に過ごし、安心感や憧れの気持ちが育ちつつ、幼稚園から小学校へとつながっていくことを実感しました。

＜自分の命は自分で守る＞

27日の交通安全教室では、お巡りさんに「命は一つしかない、だから自分で守る」ということを教えてもらいました。その後の実地訓練では、歩道を渡る際に、車に気を取られ、気付いたら信号が点滅して渡れない子もいて、改めて自立を促す関わりの大事さや難しさを感じました。

3年間の園生活が、意外な形で終わるかもしれません。しかし、どんなことも前向きに受け止め、自分の糧にして育っていかれることを祈っています。すてきな子どもたち、保護者の皆さんに出会うことができ、幸せな日々を送ることができました。本当にありがとうございました。

・・・弥生（やよい）・・・

啓蟄（5日）…青南ではどんな虫たちが目覚めるでしょう

春分（20日）…園庭の桜はいつ頃開花するでしょうか…

裏庭の桃の花が一輪咲いていたよと、子どもが教えてくれました。その周囲の『ふきのとう』はすっかり塔のように伸びています。わくわく池には今年もヒキガエルがやってきました。桜の枝のつぼみはどうで自然の小さな変化に気付く感性は、子どもたちの小さな育ちを読み取る感性にもつながります。南青山のどこで季節の移ろいを感じたでしょう？次の一年もまた、身近な自然の営みをお楽しみに…。

青南の
二十四節気



元気いっぱい動物になりきって踊った年少児



年長は何から何まで自分たちで創り上げてきた劇



授業や給食体験で学校への期待が高まります



お巡りさんから交通安全の話を真剣に聞きました



寄贈していただいた大型絵本をみんなで見ました